

ソーシャルグッドな男



神奈川県立こども医療センター地域連携・家族支援局長 星野陸夫

東日本大震災の際に、学生と社会人を混ぜて被災地に連れて行くボランティアツアーに参加した。たくさんの若者と一緒に被災地の瓦礫掃除などを行ったが、そこで知り合った学生たちの若く鋭敏な感性に、改めて心が震えるほどの感動を覚えた。これからの時代は、こうした若者たちに任せる方がよい方向に向かって行くに違いない。

のちに、そのツアーを企画したある広告会社の社長に「あなたの仕事はずるい」と言われたのだが、その言葉の意味がよく分からなかった。広告業界はとてつもない現状で、大手の会社でもないかぎりいい仕事は回ってこないし、なんとか取って来た仕事であっても十分な報酬があるとは限らないだろう。それに比べて私の仕事は、待っているだけでお客さんが来ない事はまずないし、報酬も社会制度として約束されている。彼はそうした違いをもって「ずるい」と言ったのだろうか。

彼は震災1ヶ月前に、大学コンソーシアム京都 (<http://www.consortium.or.jp/>) で7年間続けた講師を終えたばかりだった。京都で過ごす7年分の教え子たちが、遠く東北の地で起きた大災害に呆然とする様子を知って、先のボランティアツアーを教え子たちのために企画したのだった。その後も、彼は本職である広告業をそっちのけに、自らを「ソーシャルグッドな男」と称し、被災地支援や防災、果ては世界平和やSDGsに関する仕事に休む間もなく取り組んでいる。

そんな彼が私の仕事の何を「ずるい」と言ったのだろうか。実は、いまでも彼からその答えを教えてもらってはいない。しかし最近になって、なんとなく分かってきた事がある。彼は長く広告の仕事の続けながら、自分の社会的価値と未来を探していたのに違いない。それに比べて、子どもたちの健康を守る仕事は、常にそれ自体が社会貢献にそのまま直結し、さらに未来を作り出す事にもつながっているのだ。彼とは古くからの付き合いではないが、紛れもなく大切な友人の一人である。

